



2021年11月1日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 56号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. マレーシアのチョコレート輸出額、1-8月は6億5,000万リングットに増加(10/30)

マレーシアのチョコレート製品の輸出額は、今年1月から8月までの期間に6億5,000万リングット(≒約177億円)と、前年同期の5億8,500万リングット(≒160億円)に比べて11.0%増加しました。

Plantation Industries and Commodities Minister である Datuk Zuraida Kamaruddin 氏(以下、ズライダ氏)は、世界中が COVID-19 の影響を受け、経済成長が若干阻害されたにもかかわらず、カカオ関連を含む製品から得られる国の収入額は依然として増加していると述べた。

マレーシアのカカオ加工製品の生産高はわずか70億リングット(≒1,645億円)にもかかわらず、世界のカカオ加工品の市場規模は1,200億リングット(≒3兆2,820億円)なので、マレーシアはまだ大量に生産することができると思います。

「マレーシアは、より多くのカカオ加工製品を生産できる戦略的な国なので、もっと成長できると期待しています。それゆえ、私はマレーシア・ココア・ボードに、海外で販売できる製品に焦点を当てるよう依頼しました。

「カカオ、チョコレート市場の可能性は非常に大きく、国民所得の増加を目指して、小規模なカカオ・チョコレート関連の起業家をグループ化し支援していきます。」と、マレーシアのココア・イノベーション・アンド・テクノロジー・センターを訪問した後、記者団に語りました。

ズライダ氏は、マレーシアのチョコレートを輸出している国の中には、中国、韓国、インドネシアが含まれていると述べ、マレーシア企業の生産するチョコレートの品質が国際的な基準に匹敵するという自信を示しました。

また、サバ州とサラワク州を含むマレーシアでは、6,000ヘクタールのカカオ栽培が行われており、5,000人の小規模生産者が存在すると述べました。

アブラヤシプランテーション部門に32,000人の外国人労働者を受け入れるというマレーシアの決定について、ズライダ氏は、同国のヤアコブ首相が11月10日にインドネシアを訪問した際に、インドネシアとの覚書に署名する予定であると述べた。

「インドネシアには既に5,000人の労働者が待機しており、覚書が締結された後、5,000人の労働者が段階的に入国し、11月15日までは入国できることを期待しています」と述べた。

2022年予算について、ズライダ氏は、製品開発プログラムに25億リングット(≒683億円)が割り当てられていることは、農村地域の開発を強化し、生活水準を向上させることに対する国の関心を示していると述べました。

「これは、製品が国民所得を生み出す上で重要な役割を果たしているからです。そのため、国民の所得を増やすための活動を行うことができるよう、ある程度の重点を置くべきです。これは、国内外のコモディティ製品の認知度を高めるという同省の方向性にも合致しています」と語った。

Tengku Datuk Seri Zafrul Tengku Abdul Aziz 財務大臣は、昨日 2022 年予算を発表した際に、上記の通り 25 億リンギットの予算を確保し、そのうち 13 億リンギットは Felda 社グループに与えられ、農園のリハビリパッケージと入植者の開発に関わると述べました。

また、財務省の子会社である Felcra 社のプロジェクトには 4 億 9,500 万リンギ、Risda 社のゴム産業のための小規模生産者の育成には 6 億 9,900 万リンギが割り当てられる予定です。

2. タンザニア、7月から10月25日までに910万ドル相当のココアを販売 (11/1)

タンザニアでは、7月から10月25日までに4,271トンのカカオ豆が販売され、209億3,000万タンザニアシリング(910万米ドル)で販売された。

農業省は、タンザニア協同組合開発委員会(Tanzania Cooperative Development Commission)の数字を引用して、カカオ豆は1kgあたり平均4,901TZS(≒2.107米ドル)の価格で輸出用に販売されたと発表した。

Technoserve社の「タンザニアにおけるカカオ生産の復活」に関する報告書によると、タンザニアでカカオ生産が始まったのは40年以上前だが、換金作物としてはまだ大きく促進されておらず、開発もされていない。

現在、タンザニアの年間ココア生産量は約11,000トンで、同国のシーズンは販売年度は2021年7月から2022年6月までを2021-2022年クroppシーズンと定めている。

3. エクアドル産カカオ豆の輸出量が過去最高に。アジアの需要が急増 (10/28)

エクアドルの主要輸出団体Anecacaoのアナリストである氏によると、世界第3位のココア供給国であるエクアドルの2020-21年シーズンの出荷量は365,258トンと過去最高を記録し、9億6,000万ドルの利益を得ました。

- この記録は、昨年の341,891トンを上回るものです。
- “Covid-19が猛威を振るって一番健康被害が多く出ていた時期においても、エクアドルのカカオセクターは停止しなかったセクターの1つだった。
- 輸出販売先では。米国が引き続きトップである一方、インドネシアとマレーシアが2位と3位にランクインしました
- 「ここ数年同様、アジア市場でのシェアを拡大しており、需要が引き続き伸びていることを物語っています」
- 世界のトップ生産国であるコートジボワールとガーナは、生産者の収入を増やすために、先物価格に加えて400ドルの生活所得差というプレミアムをバイヤーに課しており、これがトレーダーに新たな調達先を求めるきっかけとなった。

ニューヨークのココア先物価格は過去1年間で11%上昇。

4. ナイジェリアのカカオ収穫、降雨が遅れて3月まで延長の見通し (10/27)

ナイジェリアでは、現在2021-22年のメインクroppのカカオの収穫量が少ないが、来月には回復し、年明けまで続く見込みであると、業界関係者やトレーダーが水曜日に語った。

彼らによると、同国の南西部と南東部のカカオ地域では降雨が遅れ、作物の生育に支障をきたしていたが、現在の晴天を伴う降雨が助けとなっている。

「この2つの地域のいくつかの地域では、カカオの木が花を咲かせ始めたばかりで、例年はこの時期に大規模な収穫が行われていた」と、南西地域のオヨ州の州都イバダンの貿易商Tunji Akinbami氏(以下、アンキバミ氏)は語った。

アキンバミ氏は、メインクロップのカカオの収穫のピークは通常 11 月から 12 月とされているが、これが 12 月から 1 月に移行する可能性があるとし、「今年はシーズンが遅れて、2022 年 3 月まで収穫が続く可能性が高い」と述べた。

ナイジェリアでは、オグン州、オヨ州、オスン州、オンド州、エキチ州からなる南西部カカオ地域が、年間カカオ生産量の 70%を占めており、25 万トンから 28 万トンと推定されています。南東部地域は国の生産量の約 25%を占めています。

ナイジェリア・カカオ協会の Muftau Abolarinwa 会長は、ナイジェリアでは 2021-22 年シーズンに 27 万 5,000 トンのカカオ豆を生産する見込みであるとしながらも、これまでのところ生産量が少ないことを認めています。同氏は、11 月には収穫量が回復するはずだと述べました。またカカオ協会の役員である Johnbull Ewerami 氏（以下、エワラミ氏）は、国の中西部地域で最大のカカオ生産州であるエド州の一部の地域で、カカオの生産が不調であると述べました。

「降雨が予定通りに行われなかったのです。この時期にいくつかのカカオの木が花を咲かせているのは驚きです。花は 1 月までには成熟したカカオポッドに成長します。主なカカオの収穫は、エド州では 3 月まで延びるかもしれません」とエワラミ氏は語った。また、同氏によれば、エド州北部、イガラ、オバズアなどの地域ではカカオの発育が良く、収穫が進んでいるとのこと。

例年、ナイジェリア南部のカカオベルトでは、メインクロップの収穫は 9 月から 10 月に始まり、1 月から 2 月に終わる。

5. ナイジェリア、9 月のココア輸出量が前年同月比 137%に増加 (10/28)

ナイジェリアの商業拠点であるラゴスのアパパ港の検査機関や船会社がまとめたデータによると、9 月のナイジェリアからのカカオ豆の輸出量は、前年同月の 5,583 トンに比べて 13,223 トンと大幅に増加しました。

- 輸出量の増加は、ミッドクロップのカカオとメインクロップの買い付けがブレンドされたことによるものと、ナイジェリア・ココア協会の会長は説明。
- 出荷量は、8 月に輸出された 20,873 トンよりも 37%少ない
- アジアが最も多くの輸出を行っており、9 月の全出荷量の 51% (6,701 トン) を占める
- アジア大陸の主な輸出先は、マレーシア、インドネシア、中国。
- 欧州は全体の 35%を占め、オランダが最も多く、次いでベルギー。
- その他の国では、カナダ、アラブ首長国連邦が出荷された
- ココアバターの輸出量は 625 トンで、前年同月の 655 トンから 4.6%、8 月の 1,079 トンから 42%減少しました、ココアバターの輸出先は、オランダとドイツ。

6. コートジボワール新物、10/18-10/24 の週間着荷数量は 90,735 トン (10/25)

政府のデータに詳しい人物によると、コートジボワールの生産者は先週、90,735 トンのカカオを港に出荷した。前年同時期の数量は 106,993 トンであったのでやや昨年と比較して引き続きスロースタートとなっている。10 月 1 日のシーズン開始からの総着荷数量は、276,691 トンとなっており、昨年同時期までの 325,523 トンより下回る数字となっている。収穫の遅れが主な原因であるが、収穫量の減少につながる傾向が高いかどうか注視してみていく必要があるようだ。

下記は、同国内のカカオ豆の買受先の一覧である。最大の買い手は、バリーカレポーのグループ企業である Saco 社や、Olam International の関連企業である Outspan、や Cargill などの企業である。

以下は、10 月 1 日から 10 月 10 日までの上位各社の購入量（単位：トン）の表である。

会社名	購入数量(トン)
カーギルグループ	46,035
Saco 社	33,868
アウトSPAN(オーラムグループ)	35,872
Touton 社	18,744
S3C 社	17,088
その他企業	125,084
合計	276,691

7. ファンド勢のNYカカオ先物は純買い越しポジションを減らす - 11 週ぶりの低水準(10/30)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買い越しポジションを 2,058 ロット減らし、4,352 ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、10月26日)の取引が含まれている。

- 純買い越しポジションは過去 11 週間で最も少ない、低水準。
- 総買い数量は先週より 4,290 ロット減少し、42,166 ロットで、過去 12 週で一番低い数字
- 総売り数量は 2,232 ロット減少し、37,814 ロットとなった。

8. NY 市場の全プレイヤーのポジション一覧の分析 (10/30)

COCOA - ICE FUTURES U.S. (CONTRACTS OF 10 METRIC TONS)
 CFTC Code: #073732
 Open Interest: 245,387 Total Changes: -4,466 Total Traders: 209

AS OF: 2021-10-26

[View Historical Data](#)

	Long			Short			Spread		
	Positions	Open Int	# Traders	Positions	Open Int	# Traders	Positions	Open Int	# Traders
Producer/Merchant/ Processor/User	100,716 +1,405	41.0%	38	130,149 -823	53.0%	35			
Swap Dealers	14,984 +1,439	6.1%	17	8,807 -74	3.6%	4	12,937 +1,286	5.3%	13
Managed Money	41,719 -4,446	17.0%	46	37,782 -2,220	15.4%	41	31,263 +4,154	12.7%	42
Other Reportables	20,201 -1,784	8.2%	27	4,940 +213	2.0%	22	11,905 -8,020	4.9%	27
Nonreportable Positions	11,662 -271	4.8%		7,604 -73	3.1%				

実需筋は、やや買いポジションを増やしている。これは、相場下落に伴い、加工業者やチョコレートメーカーが値決めや新規契約の買付けが増えてきたことを示している。一方で、投機筋の買いがかなり減ってきているのは注目で、一方で売りが増えているわけではないことから、今までの買いポジションを売って清算し手仕舞いが進んでいると想定される。NY市場は短期での値動きが大きいですが、相場下落が続けば、実需筋の売りが減少し、買いも増えると想定される。投機筋はやや勢いを失った感じがしてきている。

<https://www.tradingster.com/cot/futures>

9. 投機筋、ロンドン先物は純買い越しポジションを減らす。過去4週間で最も低い(10/30)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買い越しポジションを 9028 ロット減らして、46,784 ロットとなったことが、ICE 欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、10月26日)の取引が含まれている。

- 純買い越しポジションの総量は過去4週間で最も弱気水準
- 買いポジションの総量は10月26日までで、前週より8,118 ロット減少し、53,784 ロットとなった。
- 買いポジションの総量は、過去4週間で最も少ない数量
- 売りポジションの総量は10月26日までで、前週より910 ロット増加して、7,000 ロットとなり、売りポジションだけの総量では過去6週間で一番多い数字。

10. LDN 市場の全プレイヤーのポジション一覧の分析(10/30)

Commitments of Traders		Futures only								
ICE Futures Europe										
26/10/2021										
MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money			
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading	
26/10/2021	283068	149690	245297	41078	6860	4536	53417	7000	8820	
Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader										
26/10/2021	100%	52.9%	86.7%	14.5%	2.4%	1.6%	18.9%	2.5%	3.1%	
Number of Traders in Each Category										
26/10/2021	138	45	40	17	6	9	31	12	13	

ロンドン市場はついに相場の雰囲気逆転してきたことを示している。実需筋には大きな変動はないが、投機筋は、これまで貯めてきた買いポジションをついに減らし始めている。また、売りポジションも少しではあるが増えてきていることから、相場は天井を見たという動きが感じ取れるポジションの推移になってきている。ロンドン市場は買われすぎ状態が長く続いていた為、どの程度まで反転して下がっていくのかが見どころとなりそうだ。

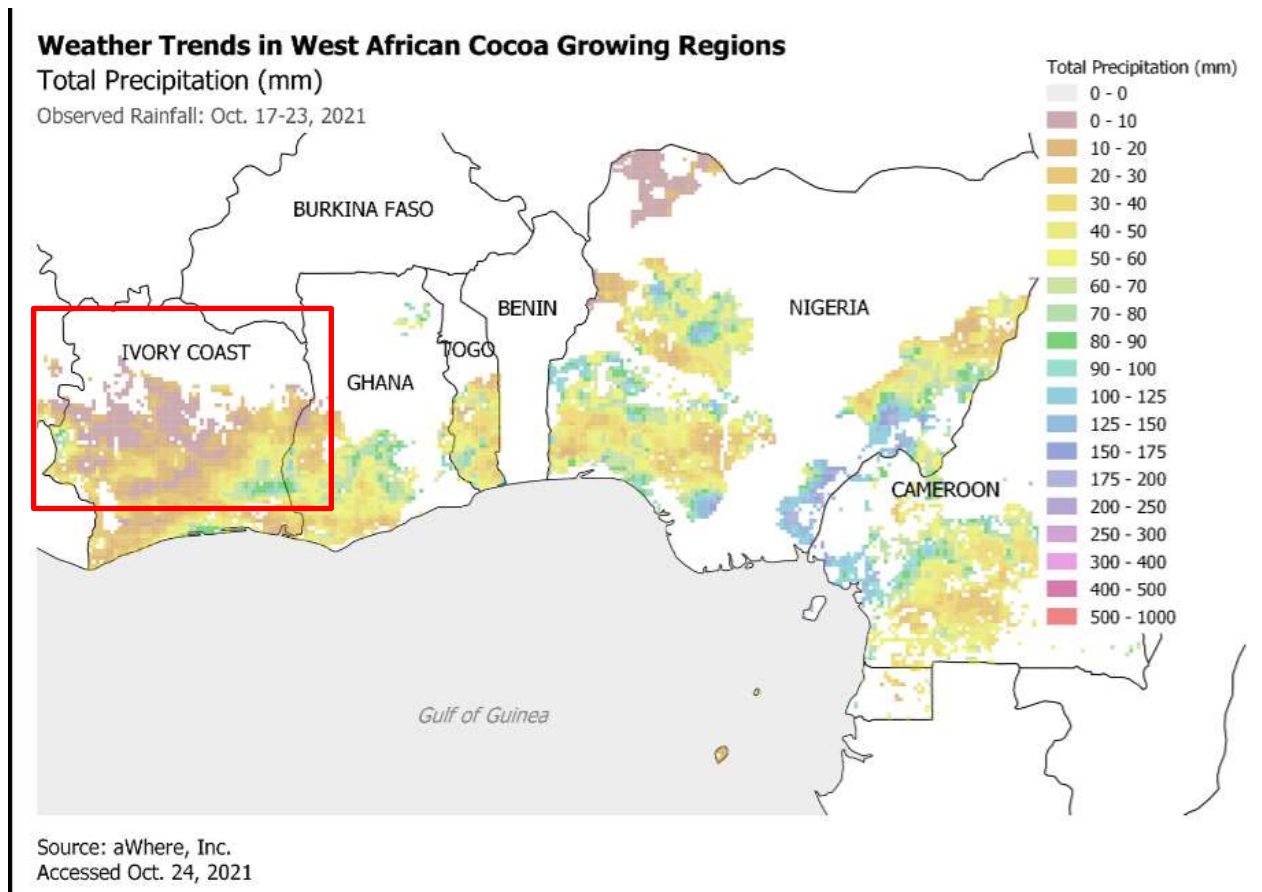
11. アフリカ UPDATE: コートジボワール、季節外れの降雨で収穫に支障(10/25)

コートジボワールの一部の地域で季節外れの雨が降り、世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールの農園からのカカオ豆の輸送に支障をきたしています。

南西部の町 Buyo の生産者 Lucien Lognon は、「雨ですべての道路がダメージを受け、収穫物の搬出が困難になっている」と語った。「どこもかしこも泥だらけで、カカオを積載したトラックが動けなくなっています」。

先週、ニューヨークのカカオ先物は、アジアと北米のカカオ豆磨砕数量の需要成長データが事前の予測と比較し期待外れであったこと、世界的に供給が今シーズンも豊富であるとの見通しから、2ヶ月ぶりの安値付近で取引されました。10月の初めには、ヨーロッパのチョコレート需要がパンデミックの影響で落ち込んでいたのを回復する兆しが見られたため、カカオ豆の相場価格は上昇をしていました。

ガーナでは、南西部のコートジボワールとの国境に位置する Yakase 村のカカオ生産者、David Soffo 氏によると、先週はよい日照りと雨が両方あったと報告された。



*10月23日までの1週間における西アフリカのカカオ生産地域の降水量。(資料：aWhere)

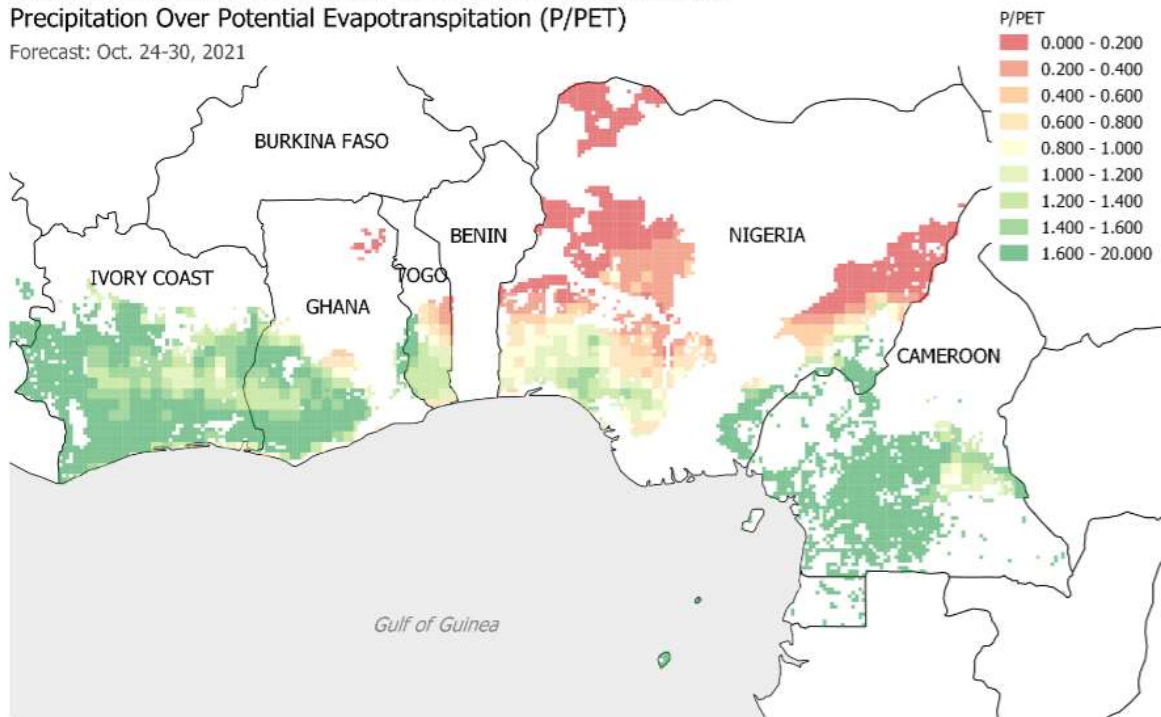
カメルーン南部の生産地では、カカオの収穫が妨げられたものの、雨が降り続くことでカカオの苗が新鮮な葉を茂らせることができたため、生産者は歓迎しました。

ナイジェリア南東部では、イコム近郊のアボンコン村にカカオ農園を持つコロンボス・バントン氏によると、生産者ははメインクロップの収穫の第一ラウンドを終えたところです。3月と4月に小雨が降った後、長い乾季が続いたため、予定より収穫が約2ヶ月遅れているとのこと。

Weather Trends in West African Cocoa Growing Regions

Precipitation Over Potential Evapotranspiration (P/PET)

Forecast: Oct. 24-30, 2021



Source: aWhere, Inc.
Accessed Oct. 24, 2021

・*10月24日から始まる週のP/PET予報。P/PETとは、その地域の蒸発需要に対する降雨量の割合を示したものです。比率が1を下回ると、その期間に水分が不足することを示し、数値が低いほど作物へのストレスが大きいことを意味します。(aWhere)

12. ネスレ、マース、ハーシー等の大手企業「安価なカカオを得るために児童労働を利用した」として告発(11/1)

世界最大のカカオ関連の企業7社が、「安価なカカオから利益を得続ける」ために児童労働を利用していると、新たな訴訟書類で告発されました。

この訴訟は、8人のマリ国民が、子供の頃にコートジボワールに人身売買され、カカオ農園で働かされたと主張して提起したものです。

ネスレ社、カーギル社、ハーシーズ社、オラム社、マーズ社、モンデリーズ社、バリー・カレボー社が被告として名を連ね、ワシントンDCで提訴されていますが、新たに提出された反対意見書では、これらの企業が「強制的な児童労働によって収穫された安価なカカオから利益を得続け巨大な企業へと成長した」と主張しています。実際、カカオ業界は、カカオ豆を収穫する農場で、幼い子どもたちが労働者として使われているという疑惑に直面しています。

シカゴ大学の2020年の調査によると、現在156万人の子どもたちがカカオ産業の中でなんらかの児童労働に当てはまる労働によりカカオの収穫しており、その主な生産国はコートジボワールとガーナで、特にコートジボワールは、世界のカカオ供給量の約40%を生産しています。

大手カカオメーカーは、自社のサプライチェーンにおける児童労働の問題に取り組むことを約束していますが、この原告8名が受けたとされる虐待に関連する十分な証拠はないと主張しています。

しかし、弁護士は、大手企業は問題に取り組もうとしていないように見せかけて、代わりに強制的な児童労働から利益を得ようとしていると主張しています。このような大手カカオ企業を相手に民事訴訟を起こしている International Rights Advocates のテレンス・コリングスワース弁護士は、インディペンデント紙に次のように語っています。「これらの企業は、2つの面で戦争を行っています。我々はカカオ生産者と協力し、彼らに学校やお金を与え、この問題を解決している」と世間に訴えています。

そして法廷では、「我々はチョコレートを買っているだけで、現地で起きていることとは何の関係もない」と言っています。最新の申請書では、自分たちはチョコレートバーの消費者と変わらないと言っています」。

先月提出された裁判書類によると、原告は全員が採用時に16歳未満で、“マリから人身売買され、被告に供給されたコートジボワールのカカオ農園で働くことを強制された”と主張しています。

法的文書によると、労働者たちは常に虫に刺され、ナタの事故で負傷し、何年も無給で働く者もいたと記されています。

本件は、2017年の「Trafficking Victims Protection Reauthorization Act (TVPRA)」に基づいて提訴されています。この法律には、「知っているべきだった」という過失基準が含まれており、組織が直接知らなくても、虐待が起きていることを知っているべきだったと証明できれば、組織は人身売買の責任を負うことになります。

国際人権擁護団体は、チョコレート会社が受け入れるよりも広い範囲でTVPRAの解釈を提案しています。原告側の弁護士は、チョコレート会社が「ワールド・ココア・ファウンデーションなどの正式な組織の中で協力して、児童奴隷に依存したカカオ生産のシステムを構築、保護、維持してきた」と主張しています。

企業はこれに異議を唱えています。オラム社の広報担当者は、「いかなる不正行為も激しく否定し、この件には法的根拠がないと信じている」と述べています。また、サプライチェーンにおける強制労働や奴隷労働は一切容認しておらず、「何らかの事例が確認された場合には、直ちに行動を起こす」としています。

マース社は、係争中の訴訟についてはコメントしないとしながらも、“カカオのサプライチェーンに児童労働や強制労働は存在しない”と考えていると付け加えました。また、“この複雑な問題の根本的な原因に対処する”ための努力をしていると述べています。ネスレの広報担当者は次のように述べています。「児童労働は容認できません。私たちは、カカオ産業における児童労働の撲滅に向けて、政府、NGO、産業界のパートナーと協力して、この複雑で世界的な問題に取り組むために、今後も揺るぎない姿勢で取り組んでいきます。」

バリー・カレボー社は、2025年までにサプライチェーンから児童労働を根絶することを約束したと述べています。スポークスマンは次のように述べています。「インターナショナル・ライツ・アドボケイツが提起した訴訟は、農園で働くために子どもを人身売買するという稀な慣行に関するもので、コートジボワールとガーナの政府は産業界とともに積極的に取り組んでいます。我々は、この訴訟の申し立てに異議を唱えています」と述べています。

ハーシーズ社は、係争中の訴訟についてはコメントしないと述べています。モンデリーズ社はコメントを求められても答えられませんでした。カーギル社は、11月19日に反対派の主張に対する回答を提出する予定です。

13. ナチュラルローソン「国際フェアトレード認証」カカオを使用したオリジナル商品を発売

株式会社ローソン（本社：東京都品川区、代表取締役 社長：竹増 貞信）は、10月19日（火）より、首都圏のナチュラルローソン店舗（137店舗：2021年9月末現在）で、「国際フェアトレード認証」を取得したカカオを使用したオリジナル商品3品を発売する。今回発売する商品は、チョコレートデザイン株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：八木克尚）が運営するチョコレートブランド「バニラビーンズ」と共同開発した。



「冷やして食べるガトーショコラ」399円（税込） 「バニラビーンズ タブレットショコラ・ミルク/ダーク」540円（税込）

ナチュラルローソンのオリジナル商品で「国際フェアトレード認証」を取得した原料を使用したのは、今回が初めてとなる。今後も、同認証取得の原料を使用した商品の販売を予定している。

*説明および写真は下記プレスリリースより

https://www.lawson.co.jp/company/news/detail/1441888_2504.html

14. 立花商店より；サポーター募集！ フィリピン 「クリオロカカオ再生プロジェクト」

この度立花商店では、現在カカオ豆をご購入いただいているお客様に向けて、2016年から取り組んでいるフィリピンの「クリオロカカオ再生プロジェクト」について普及活動と保全活動を支援して下さるサポーターを募集しています。少しでもご興味を持っていただける方がおりましたら、詳しい資料のご送付や、オンラインでの説明をさせていただきます。



森の中で自生していた クリオロ種と思われるカカオポッド



DNA 配列がクリオロ種と 99%一致する個体を特定・選抜。
選抜された優良な個体を 接木によって増産させます。

フィリピンではカカオ生産量は未だ多くはありませんが、世界的にも希少な品種が純粋な状態で残っていることが分かっております。その種を保全し、市場に対して正しく案内をして普及させ、継続的に販売していくことでフィリピン産カカオの世界的な地位の向上を目指しております。長期に渡るプロジェクトについて資金的、また宣伝普及分野においてカカオを使用されるお客様のご支援を頂戴できればと考えております。

サポーターや、説明会にご興味のある方は、弊社/鳥山 (h-toriyama@tachibana-grp.co.jp) までご連絡いただけますと幸いです。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。